

嬉泉の新聞

嬉泉の新聞／第17号／1990年（平成2年）11月発行（年3回発行）

発行所＝社会福祉法人嬉泉・東京都世田谷区船橋1-30-9（〒156）

TEL 03-426-2323

発行人＝石井哲夫

編集人＝友田篤

障害児・者福祉をめぐる3つの課題

板山 賢治

最近、障害児・者福祉をめぐっていくつかの重要な動きがみられるので若干の感想を述べて参考に供したい。

その1つは、障害児・者福祉関係法の改正である。去る6月29日、「老人福祉法等の一部を改正する法律」（法第58号）が公布されたが、「等」の中には、心身障害児・者福祉にかかわる身体障害者福祉法、児童福祉法及び精神薄弱者福祉法を含んでおり、その範囲は、「社会福祉関係8法改正」といわれるほどのひろがりをもっている。

精神薄弱児・者福祉については、「在宅福祉サービス（ホームヘルプ、ショートステイ、グループホーム）」の法定化、「通勤寮、福祉ホーム」、「精薄相談員」の法的位置づけ、「大都市特例」の創設などかなり重要な改正がなされているが、「施設入所措置」事務の市町村移譲は見送られている。

身体障害者福祉法では、「更生」という目的が「自立と社会経済活動への参加」に改められるほか、特に「施設入所」事務の町村移譲が実現している。

今次法改正は、戦後40年間続いたわが国社会福祉の基本的理念や制度の枠組みを抜本的に変えようという意味をもっているので、障害者福祉関係者は、よくその方向、内容等について学習し、対応に誤りなきを期したいものである。

その2は、「国連・障害者の10年」の動向である。1992年に終結するこの「10年」の成果を点検・評価するとともに、「第2次10年

計画」の設定をという声が、国の内外から強くなっている。国連ではそうした意向を受けてそのための「専門家会議」を日本で開催してほしいという動きもある。わが国政府も、「10年」記念事業の検討に着手する一方、関係者の声を聴きはじめている。

国際的動向をも勘案しつつ、日本らしい「第2次行動計画」づくりに取り組みたいものである。

その3は、「アメリカ障害者法」（「Americans With Disabilities Act of 1989」≒ADA法）の制定と「こどもの権利条約」への対応である。ブッシュ大統領が、全米2000名の障害者の前で署名発効したADA法は、雇用・教育・交通・情報・余暇等の各般にわたる「障害児・者権利擁護制度」である。

「児童の権利条約」もまた障害児をも含む児童の「権利擁護制度」の確立を目指すものといえよう。

わが国の「障害者法制」「児童福祉法制」は、何れも「よりよい状況」をつくるという「福祉法制」にとどまり、「罰則」や「訴訟」に裏づけられた法制とはなっていない。

われわれ、障害児・者福祉にかかわるものは、こうした世界の動きを適確・迅速に把握し、それへの対応を急がねばなるまい。

第2次「障害者の10年」の目標として、「日本的障害児・者権利擁護、差別禁止と法制」の確立を据えるのも一案かも知れない。

（全国社会福祉協議会
日本障害者リハビリテーション協会 常務理事）

五十嵐康郎君が年長自閉症者のための施設を作ろうとしている。私と彼との出会いについては嬉泉の職員なら誰でも知っているだろう。彼は私に対してははじめのうちは批判的であった。きっとそのときは精神薄弱児施設の名門である滝乃川学園の中堅指導員としての誇りがあったからであろう。新参者の袖ヶ浦のびろ学園など何するものかという気概があった事と思う。だが冬の社会福祉法人嬉泉の自閉症治療教育実践講座に参加して私や私のところの職員が大勢の観客の前で指導をする光景を目の当たりに見て気持ちが一変したと言う事である。つまり彼が後に述べた言葉を借りると、専門的な仕事をしている者として後に退く事の出来ない境地に自分の身をおいている姿に打たれたと言うのである。彼は自主的な優れた目をもっている人である。その後彼は、私たちとの交流から自閉症者の施設が少なくしかもその経営が非常に困難な事を知った。そして敢えて挑戦したのであった。

最近、彼から昔の話を聞く機会があった。それは、二〇代の大学

でたての彼の実践である。彼は、志を立てて日本福祉大学に学び卒業後、一人で募金運動を行い「あらくさ学園」という理想の精神薄弱児施設の建設を夢見るのである。

そして一人で全国行脚を行い同志を得て、潮の会を結成し、廃品回収により自活もしていくのである。このような実行力を持ってそれがなかなか初志を達成できず前述の滝乃川学園に就職した。この

がやむにやまれぬ気持ちで施設を作る事が多い。五十嵐君のように社会福祉の専門の人が施設を志す事は稀である。つまり社会福祉の専門性の大半は、社会福祉に邁進しようとする志では無からうか、とすると社会福祉施設の経営は、このような専門性を絶えず施設内に潮流として位置づけている必要があると言いたいのである。社会福祉施設は、それを開始するときの感激や新鮮さというものが

施設経営の創造性(その八)

石井哲夫

人の純粹さと行動力と組織力があつてはじめて自己の私財を投げ出している施設建設の動機が分かるのである。幸い、大分県の自閉症協会から全面協力があり(大分県犬飼町という彼の奥さんの故郷に施設建設の予定)このほど、社会福祉法人明慈の郷を設立して「めぶき園」と言う自閉症者のための精神薄弱者更生施設の建設を行う運びになったのである。

当節は障害児をかかえた親たち

あつて、それは、格別なものである。本来わが子のためにと熱中して施設を作った親たちも当初の感動がさめないうちに施設のために寄付金や補助金の導入に努力するものであるが、施設の運営の苦勞を支える専門性にはどうしても不足しがちなのである。そこに専門的社会福祉従事者の出番があるのである。勿論施設を経営している親の中にも専門家顔負けの素晴らしい人物を多くみかける事があ

る。しかし問題は、その人の動機の中に、冷静に自分の仕事への興味を深めかつ高め続けていこうとする気力があるという事が大切なのである。社会福祉施設で、職員集団の活気と施設長をスーパーバイザーとして取りまいていくという運営の工夫が望まれるのである。五十嵐君は、施設建設のスクーガン(スクーガン)を背中のリュックサックに張り付けて全国を回ったそうであるが、そのとき風呂屋で彼の脱いだ服の上にあったスクーガンを見て湯船の人に一人一人彼かどうかが聞いて仲間になった板前さんが居たという。人の熱意やその激しい志しが共鳴者を作らずにはいなかったと言う話を聞いて、古くさいかも知れないが、社会福祉施設には、激しい志しと共鳴を呼ぶという営みを大切にしていきたいと思うものである。

その点私たちのような自閉症に係わる施設の利点としては、相手人間関係を付けてくれないし変わった事や困ったことを多くしかすだけに、逆に私たちを叱咤激励してくれる事になるわけであつて、この状況に負けてしまったのでは、手抜きと職員中心の処遇に成っていくのである。

私たちの

うぶや

須藤福祉センター各事業所からの報告



ほほえみ賞について

島野 雅子

福祉界の芥川賞とも言われる「ほほえみ賞」については、今日、福祉に携わる多くの人々に広く知られるようになりましたが、これは社会福祉法人嬉泉の社会福祉事業助成事業として、全国社会福祉協議会、日本精神薄弱者愛護協会、全日本精神薄弱者育成会、福祉新聞社の後援を得て毎年

論文を募集し実施しているものです。

本賞は、重度精神障害と言語障害という二重苦を背負った長男を抱え、自らもスモン病という難病と闘いながら常に「ほほえみ」を忘れず、明るく生き抜かれた故武藤生子さんの御意志を受け、長女の武藤昭子さんがその財を社会福祉法人嬉泉に寄付され、それを基金として運営されています。法人としては、常務理事の石井哲夫が担当理事として「ほほえみ基金運営委員会」の委員長を務めており、昭和五十一年より精神薄弱児・者関係の社会福祉事業に従事している職員を対象に広く研究論文を募集しております。毎年その中から優れた論文に対して、研究助成金を贈呈し、多くの職員の研究意欲の向上と、よりよき直接処遇の実践に役立つことを念願としております。

賞の内容としては、「ほほえみ賞」として、賞状及び副賞五〇万円

円、「ほほえみ奨励賞」として、賞状及び副賞二〇万円となっております。これまでに一七編の「ほほえみ賞」と六二編の「ほほえみ奨励賞」が選ばれています。

応募は、毎年一月末に締め切れ、予選・本選を行います。その選考の基準は、

- ①自らの処遇経験に基づくもの
- ②処遇内容の改善に創意工夫の努力が認められるもの
- ③論文を通して愛情の感じられるもの

となっております。

第一四回目の選考委員は、予選が、

妹尾正（財団法人日本精神薄弱者愛護協会参与）

秋田晴美（社会福祉法人光友会おさなご園作業所所長）

奥村幸子（社会福祉法人嬉泉理事、子どもの生活研究所、めばえ学園園長）

本選が、

秋山泰子（日本精神薄弱研究協会会長）

石井哲夫（社会福祉法人嬉泉常務理事、日本社会事業大学教授）

江草安彦（財団法人日本精神薄弱者愛護協会会長、社会福祉法人旭川莊理事長）

妹尾正（財団法人日本精神薄弱者愛護協会参与）

皆川正治（社会福祉法人全日本精神薄弱者育成会理事長）

吉武民樹（厚生省児童家庭局障害福祉課長）

の各先生方をお願いいたしました。

（五〇音順）

応募は、毎年北は北海道から、南は沖縄まで文字どおり全国各地から寄せられますが、第一四回目は二六編あり、「ほほえみ賞」の該当はなかったものの、六編の「ほほえみ奨励賞」が贈呈されました。

受賞者名及び論文名は日本精神薄弱者愛護協会出版の月刊「愛護」と全日本精神薄弱者育成会出版の月刊「手をつなぐ親たち」の五月号及び「福祉新聞」の紙上に発表されます。第一二回目から、受賞論文は月刊「愛護」の臨時増刊号として全国の協会員に配布されています。

贈呈式は、毎年七月、厚生省・東京都の関係者の方を始め、わが国福祉界を代表する多数の方々をお招きして、厳粛な贈呈式とそれに続く懇親会が和やかな雰囲気で行われます。

（子どもの生活研究所）

『私たちのしごと』の周辺

千葉ロール・プレイング研究会主催
第二六回ロール・プレイング講習会に参加して

大倉さつき・勝股葉子・北川裕
白石雅一・横山隆子(五〇音順)

【研修の意味を考える】

石井先

生は、私たち若い職員によく、

「研修のすすめ」を説かれます。

「自分で新しい研修の場を探し、

どんどん新しい体験をして勉強し

て下さい」とおっしゃいます。そ

して、「一つの事に縛られる事な

く、常に何かを吸収する姿勢を

持って、自分なりの子どもに対す

る方法を確立して下さい」とも

おっしゃいます。そのように、私

たちを研修の場に誘うのですが、

しかし、具体的には「〇〇を研修

で身につけて下さい」と指示さ

れることはありません。どうや

ら、研修の大切な意味の一つとし

て、未知の場に身を投ずるとい

う職員が自発性が問われているよう

であります。

世の中には、「示唆深い」とい

う便利な言葉があります。石井先

生の臨床家としての実践に裏付け

された理論は、ことのほか奥行き

が深いもので、先生が簡単に話さ

れる言葉であっても、それを私た

ちが消化するまでには長い時間が

必要となります。ですから、私た

ちは、いつも先生に向かって「大

変示唆深いお話をありがとうございます」と自らの勉強量のなさ

を隠すために、そう言っている場

を繕うのであります。従って、私

たちの頭の中は、「受容的交流療

法とはなんぞや？」という問答で

支配されてしまうことになりま

す。すると、先の一つのことに縛

られてはいけない、ということの

真意が気になり始めるのです。

欧米の精神医学者に言わせ

ると、日本人は全てが「強迫的性

格」の持ち主であるそうです。

「会社に行かなければナラナイ」

「休みであっても休めナイ」

「子どもは立派にそだてなければナラ

ナイ」等、常に何かの「観念」に

縛られていることは確かに多いよ

うです。そこで、自分自身を省み

ると、やはり、日常「治療者はこ

うでなければナラナイ」と観念に

縛られていることが多々ありま

す。それで、身動きが出来なくな

って、利用者への対応が鈍く

なっていることがあるのです。こ

こで、先ほどの命題に対する一つ

の答えが導き出せるようです。す

なわち、「観念に縛られてはなら

ない」ということです。すると、

研修の意味は「観念を捨て去り、

自ら行為する」機会を得ること

であるように思われます。

【研修の内容】人は誰も、不

用意に侵されたくはないPersonal

spaceを有しています。しか

し、それが関わる人によって広

がったり極端に狭まったりするの

です。今回、私たちが参加した講

習会での主題は「一人に関わる」こ

と。関わりなければナラナイとい

う観念を捨て、いかに相手の気持

ちを感じ、自分のとった行動を知

ることが出来るかが問われまし

た。すなわち、相手をよく観、相

手のこころの変化に自由に対応す

ることが出来れば、かたくななPersonal spaceも開かれたものになる、ということをも身をもって知る講習会でした。そのため、研究会の顧問である小林先生は、盛んに「ロールテイキング」を脱却するよう説かれました。そして、「日常の自分でロールプレイングして下さい」「相手を分かったよ

うな「気」になるのではなしに、誤解を恐れなくて下さい」と様々な観念から自由になることを奨励されました。

【研修が終わって】 今回の講習

会は、会が発足して26回目にあた

り、四半世紀でくると新たな1

年目の年になります。そのことか

ら、小林先生の意気込みが「初心

に帰る」という言葉に現されてい

ました。その影響で今回、特に印

象に残ったことがあります。それ

は、この講習会に古くから参加さ

れている先生方のロールテイキン

グが浮き彫りにされたということ

であります。これは、小林先生の

「慣れ」に対する一つの警鐘で

あったように思われます。私たち

もいつしか利用者に対する「慣

れ」から、様々な観念を形成させ

かねないと自戒の念を抱いたところ

であります。また、「日常いた

るところでロールプレイングは出

来る」という小林先生の言葉にあ

るように、私たちは「これはデキ

ナイ」と観念的に自己を縛り付け

るのではなく、ことある機会に自

分としての役割を演じ、新しい自

分を創造していきたいと考えてい

ます。石井先生のお話の内、よう

やく一つが消化されようとしてい

ます。

(文責 白石)

嬉泉の出来事

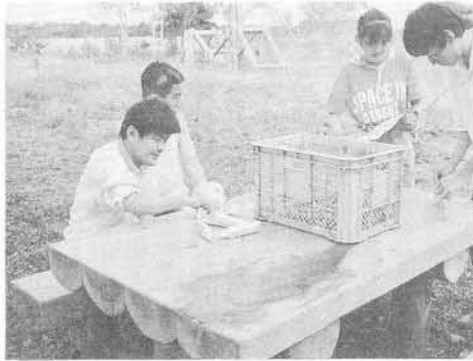
ベンチテーブルと アストロキヤッスル

八月、袖ヶ浦のびろ・ひかりの学園のアスレティック広場に木製のベンチテーブルが設置されました。これは、財団法人キリン記念財団のご援助により購入したものです。これまでアスレティック広場には休憩場所がなく、子どもたちが落ち着ける、拠点となるものが望まれていました。拠点があると子どもたちも一時をそこで過ごすことができます。先日「やきいも」を楽しんでいました。(写真)

子どもの生活研究所の庭にちょっと変わった大きな遊具があります。これは「アストロキヤッスル」というものです。この「アストロキヤッスル」は、財団法人日母おぎやあー献金基金のご寄付により設置しました。このほかに、屋内用の体育遊具と感覚遊具もご寄付いただきました。去る九

月二〇日、おぎやあー献金基金の方をお招きして子どもの生活研究所で贈呈式が行われました。この「アストロキヤッスル」、今では子どもたちに大変な人気です。

(小野直人)



のびろ・パイレーツ

ゲームセット、十一対四、のびろパイレーツの勝利。しいの木養

護学校職員チームとの第二回親睦試合の結果である。

彼岸の中日、中塚・郡司の百歳バッテリーで始まった試合は、終始和やかな雰囲気の中で行われた。しいの木チームは、小道具を手にそれこそ鳴り物入りの大応援団を繰り出している華やかさ、こちらは残留のお子さん数名に職員がボツリボツリ。数の上では圧倒的に不利。それにもめげずチームワークで勝ちを納めることが出来た。

のびろ・ひかりの両学園の職員愛好者十六名によって誕生した「のびろパイレーツ」、それぞれなけなしの金をはたいてユニフォームを揃えたが、つま先まではお金が届かず、シューズはまちまち。今のところ対戦相手に恵まれ(？)二戦二勝。勝敗はともかくとして、このような機会を通して職員のチームワーク作りと地域との交流をはかる上で少しでも役立つことが出来たら、と願いつつ。(中塚博勝)

のびろ・ひかりののびろ・パイレーツ

今年前半期の行事を紹介したいと思います。

四月末の青天の一日、学園の広場で恒例の「鯉のぼり大会」が開

かれました。「春の空に泳ぐ鯉のぼりを見て、職員も利用者の人たちもなごやかな気持ちになろう」をテーマに、手作りのかぶとをかぶっての行進から始まりました。ヨイショヨイショのかけ声で鯉のぼりを大空に揚げた後、利用者・職員全員で力一杯鯉のぼりの唄を歌い、怕もちをいただき皆大満足でした。

九月は秋祭りです。七月に予定していた夏祭りが雨で延期になってしまい利用者の人たちが熱い思いで待っていた秋祭りです。心配されていた台風も過ぎ去り、カラリと晴れた空のもとに行われました。今年祭りの雰囲気盛り上げようと趣向を凝らして盆踊りの櫓を組立てたり、焼鳥・焼きそば・フランクフルトの屋台を出したり、それを囲んでグループごとに食事をしたり、ですっかりお祭りらしくなりました。

手作りの御輿を全員で担いだ後は、メインの大盆踊り大会。のびろの人たちは「かまて音頭」、ひかりのは「おどるポンポコリン」を盛大に踊り、花火を打ち上げ皆十分に堪能した一夜となりました。

次は、十一月の「大運動会」です。

(若林誠子)

職員の仕事

今回の本欄では、今年度新人の職員が就職して半年余り経ち利用者の人たちと日々関わりつつけてきた中からの最近の思いをつづってもらいました。

かわいくなった子どもたち

石川 章子

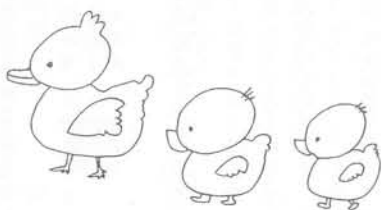
最近、こどもがかわいくなってきた。正確に言えば「かわいい」と思える子どもが増えてきた。布団に横になってることが多かったF君の目つきがはつきりしてきて、イスに座っていたり、散歩に行く姿を見ると嬉しくなる。「今日も調子良さそうだね。」と声をかけたり頭をなでたりするのを前のように避けない。夜布団に入ってから「風邪ひくといけなから手入れようね。」と言えはスーッと両手を中に入れるし、「疲れると明日散歩に行けないから目だけでもつぶっていたら。」と言うと、ギューッと目を閉じる。

S君にしても時間を見計ってトイレに誘い、おしっこが出た時は思わず「エイ、よく出した。」

と肩をたたいてしまう。

Hさんも近頃、盛んに手を求めてくるが、「痛い」のするならイヤよ！」と言うと、つねっている手をゆるめる。また、今週は「バッシュ、バッシュ」「シャムイ、シャムイ」という言葉も初めて聞いたし、「Hちゃんって言った」「ハイ」って言わなくちゃ。」と言います。「Hちゃん」と呼びかけると顔を見て右手を挙げる。

仕草とか、言っていることでもなく、何か通うと感ずることが「かわいい」と思わせているのだらう。まだ「こわい」子どももいるが、みんなかわいいと思えるよう急がずに関わっていきたいと思っている。(袖ヶ浦のびろ学園)



秋まつりの踊りについて

大場 直子

先日の秋まつりで、ひかりの学園全員で、今流行の「おどるポンポコリン」の曲に合わせて踊りを踊りました。この踊りはもともと七月の夏まつりでの、やすらぎ組の出し物だったのですが、どうせやるならひかりの全体で、ということになったようです。やすらぎ組の皆さんは六月より踊りの練習をしてきたので、かなり曲と踊りを覚えていて、テレビ等で「おどるポンポコリン」の曲が流れると「ん」という感じでテレビに注目することが、何度かありました。

普段、みんなで何かをするとか、リズムに合わせて体を動かしで楽しんだりすることが少ないのですが、意外な人が意外に楽しんで踊りの練習をしていました。

また、ひかりの全体での練習の時も、職員の声かけ、誘いかけに応じて、頑張って練習をしていたようです。

秋まつり本番では、皆さんがそれぞれに楽しんで踊ることができたように思います。曲自体、リズム感があってのりやすいということもあってか、自分なりに曲に合わせて踊っている人、練習した踊



りを一生懸命踊っている人など様々でしたが、みんなで何かをやったという満足感は、利用者の方々も感じていたのではないかと思います。私自身も利用者の方々の生き生きとした表情が印象的で踊り終わった後の「みんな頑張れた！」という充実感があり、とてもうれしかったのです。

ただひとつ残念なことは、Yさんが不安定になり、大声を出していたため、踊りに参加できなかったことです。Yさんの場合、練習の時も、みんなと一緒に行動することができず、個人練習というところで私とマンツーマンで練習を頑張っていただけに、本番で無事に踊らせてあげたかったと思っていますので、本当に残念でなりまんだ。(袖ヶ浦ひかりの学園)

ひかりのタイムス

独立第11号

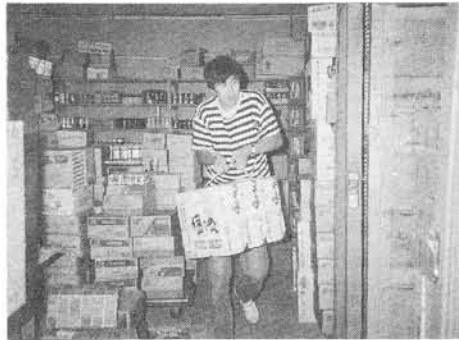
特集・社会参加

スーパーしんめいでの
実習から

市川浩志

スーパーしんめいに働きに行き始めた時はたいへんと思いましたが。何回も重い荷物を運んだり、荷物を移したり、倉庫へ移したり、エレベーターの中に荷物を積んだり地下から一階へ上り、上で荷物をおろしたり、三〇分休憩がありジュースをこちそうになった。

始めのうちは友田先生がついて見ていました。それでも荷物運びの仕事はたいへんたのしげでした。外の箱をならべそろえるのはたいへん楽しくないです。つまらなかつたです。夏でしたので、暑くて汗をかきました。ゴミ捨てもやりました。ゴミ捨ては箱・カンを別々に捨てるのです。それを一回やってそこでもジュースをこちそうになった。実習が終わってからしんめいの休憩室でお茶を飲ん



スーパーで働く市川君

で何か食べさせて貰いました。

そう言う事を六月から九月にやって合格しました。九月ようやくスーパーしんめいは合格しました。それで始めはずっとパン販売の車で行く事になっていたがあとは火曜日がパン販売の車で金曜日は友田先生が送っていく事になりました。友田先生と店長が話し合った所、一回五〇〇円貰える事になりました。これから火・金は

しんめい、水・木、がパン工房になりました。それでやきいもは今年で終了しました。これからしんめいスーパーで仕事してパン切りを楽しくやってた石崎さんと仲良くやります。鈴木先生とも仲良くやり一生懸命働いて金をためて旅行へ行こうかと思っています。松崎へ行って、夏は伊豆元間へ行っ楽しく行く為にこれからもしんめいスーパーへ一週間ぐらい行く事にしたいと思います。

(袖ヶ浦ひかりの学園利用者)

インタビュー

〈聞き手〉山岸裕

〈榎橋君にグループホームの事聞く〉

「グループホームに来てどうですか?」

「この学園で寝泊まりしてたより寂しい。楽しくない」

「グループホームではどういう家事をやっているのかな?」

「洗濯と部屋の掃除だけ 料理はしていません」

「グループホームで自分なりに楽しい事は?」

「グループホームの来客が来る時とか 利用者の行事をやる時(利用者の誕生日パーティーの時)それとよく女子職員が来訪する。担当

の職員の知人は来訪しません」

「担当職員のお子さんは?」

「すごく可愛い」

「朝 何時ごろ出勤?」

「車で送り迎えしてくれる。七時二〇分にグループホームを出る。ついたらずいぶん仕事する。その後朝食(立ち会いの金沢先生が凄く頑張ってるじゃないとコメント)」

「結婚は考えてる?」

「まったく考えていない」

「皿洗いとか料理はなぜしませんか?」

「二〇時過ぎて、おやつとコーヒードrinkは自分のやる。」

「お風呂を沸かすことはなぜしないの?」

「火は安全性の問題あって職員がしている」

「何時ごろ就寝?」

「十一時までテレビを見ている」

「グループホームでの希望は?」

「行事を増やしていく事を担当の職員と話している」

「将来はどう考えている?」

「今の仕事をこれからも続ける」

「飯田さんに老人ホームでの実習を聞く。」

「老人ホーム側の仕事の評価は?」

「洗濯物をたたむのは、私が上手で休まず来てほしいと言われ



老人ホームで働く飯田さん

る。「それ以外に、仕事を頼まれた事は？」
「旧式の洗濯機で、職員の制服の洗濯、ハンガー干し。と乾燥機のブザーが鳴ったら止めて、利用者の洗濯済みの籠に入れる。それとガスの元栓を締める」
「ボケ老人が、老人ホームで叫ぶのはあんまり抵抗ない？」
「あんまり感じない。私は直接叫ばれたりする事はない。ボケ老人はかわいそうと思う。けどどしどしかりした老人は私が玄関を入ると挨拶してくれる。」
「結婚したいと思う？」
「無理だけど好きなひとになりたいと思う」
「グループホームに入りたいと思う？」

「入居したいと思う。女性専用のだったらい」
「将来はどう考えている？」
「得意な事を伸ばしたい。老人ホームで給料を貰い労働時間を増やしたい」
榊橋潔(グループホーム利用者)
飯田真奈子
(袖ヶ浦ひかりの学園利用者)
のびろからひかりので

の社会参加

田中雅也

千葉県袖ヶ浦での生活は、のびろ時代からのびろ学園の他の園生と別行動で、最初の社会参加は、自宅からの電車通園。この電車通園は、今年の五月で十年過ぎました。昭和五十九年四月に、社会復帰と作業指導中心のひかりの学園が開設されて、この時から、JR長浦駅に、月曜日に行く時間が決められた。次に、社会参加の為に昭和五十七年サイコドラマ心理劇で練習を受け、この時からひかりの園生ができた時までの五年続けて、東京の世田谷区の桜新町のレストランへ千葉県袖ヶ浦でできたての野菜と卵の配達をまかされた。
ひかりの園生ができたのと同時に東京の世田谷区の子供の生活研究所で、事務の仕事がまかされてレストランの配達を始めた時と同時に

に、のびろ学園の切手を調べて、切手を自転車で根形郵便局へ買いに行く仕事。これは、今も続いている。

ひかりの学園での仕事は、ひかりの学園の開園と同時にやきいも販売、パン販売と作業指導を続けてから、昭和六十二年七月から現在も僕だけに袖ヶ浦駅前に有る不動産屋の富士住建の仕事がまかせてもらっています。この仕事は施設と別の生活です。ひかりの園生がきたのと同時にルンルンアパート職員寮へ住むようになったり、富士住建の通勤と同時に、ひかりの学園でのボナスと労働報酬も貰うようになったり、ひかりの学園での社会参加の経験を沢山増やしてやっています。

富士住建の前は、袖ヶ浦駅前の千葉銀行へ一人で、用事をしに行ったり、他に、袖ヶ浦町役場へ行ったりして、仕事をやっていました。僕の出来る仕事の範囲が増えたのは、沢山ののびろとひかりの園生が信用してくるからです。特に友田先生は一番信用してくれています。生活と仕事の中で大切なのは、時間厳守です。これから沢山仕事をやり続けます。この時間は、必ず守ります。ひかりの生活は、他にお風呂・食事など

集団生活だから時間を守るのが大切で。社会参加の指導員は、昭和六二年度まで山崎先生が担当で嫌な思い出としてよく注意された事が残っています。他に、バザーの時職員と同じように仕事をやるのも社会参加です。他に、平成元年度は、家事指導を受けましたけれど、これは、僕には出来なかつた。草取りと掃除が出来なかつた。草取りと掃除が出来なかつた。僕は時間に遅れたり、先生が探さないといふし、さぼったりしたのはすくなく恥ずかしいです。そんな事はなかつた方が良かったです。これからはぐずぐずしないようにしたいです。今までの失敗も無いように実行します。他人を長く待たせたり、「探してもいない」などと言われないようにします。

これからは時間を守る仕事を実行します。この富士住建の不動産屋では、金物や食品や文房具を買う仕事と掃除を任せてもらっています。毎週、週に二回社長の奥さんから頼まれます。これからはもっと信用を高めて、信用して欲しいです。子供の生活研究所でも切手とはん押しを毎週一回やっています。

(袖ヶ浦ひかりの学園利用者)